

日本企業、復活の条件

一橋大学大学院教授
伊藤 邦雄

- *分水嶺に立つ日本企業
- *制度インフラの不利
- *技術で勝ち、ビジネスに負ける
- *部分・個別最適化が蔓延
- *全体最適のキヤノン、トヨタ
- *部分最適・縦割りから脱却
- *どう「横断知」を創造するか
- *PDCAを1週間で回す
- *グローバルモデルのサムソン
- *企業ブランドを「連結環」で考えよ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）
一年間を通してそのつもりですけれども、特に年初には良い講師に来ていただきましたということ、今年も1月はすでに日本を代表する経済学者、政治学者においていただきました。今日も経営学の分野を代表して伊藤邦雄先生においでいただいています。

伊藤先生は会計学のほうから接近される経営学としては日本の第一人者ですけれども、たまに伊藤さんとは雑誌『財界』の経営者賞の選考委員をご一緒させていただいて、席も隣になり、かつ意見も一致することが多いのです。経営者を見る目はもちろん伊藤さんほどではないけれども、経営者賞は、今日おいででのテルモの和地さんも前に受賞されておられます、積

極的に和地さんを推したのが伊藤さんと私でした。（笑）あえて言うほどのことはないですけども。

今日は、日本企業が直面するさまざまな問題をどのようブレークスルーしていくか、具体的な例も含めて楽しみなお話を伺えると思います。それでは伊藤さん、よろしく願います。（拍手）

伊藤 ご紹介いただきました伊藤でございます。どうぞよろしく願います。ご紹介いただきましたように、浅野さんとは財界研究所の財界賞、経営者賞の選考委員を長く一緒に務めさせていただいております、もし会場の皆さんで実力があるのにまだ賞をもらっていないので立候補したいという方がおられま